大網白里市議会議員　2019年10月10日

黒須（くろす）としたか

活動レポート
田園海浜文化都市宣言
CROSS通信

無所属
事務所：大網白里市大網33-8サンモア内（トップマート近く、まちサポ向かい）
電話 0475-73-4126（ナミヨイフロ）自宅電話 0475-73-8615
http://ooamicross.main.jp/　Eメール:ooamicross@ybb.ne.jp

議会は何を決めてきたのか
議会が市長の追認機関なら必要あるのか

九月二六日に閉会した第三回定例議会では、前年度（二〇一八年度）決算審査が行われ、黒須は反対しましたが、賛成多数で認定されました。

二〇一八年度決算における経常収支比率は二〇一七年度より一・八％増え約九八・七％。財政の硬直化が進んでいます。

経常収支比率とは、市の財政のうち人件費や扶助費、公債費など縮減することが容易ではない義務的経費の割合を表し、市財政の弾力性を判断するための指標です。この数値が約九九％なので、投資的経費に使える予算はわずか一％しかありません。

一般会計の市債残高は、昨年より三億円増え約一五六億円、借入額が年々増えています。市の貯金である財政調整基金は底をつき、住民サービスが縮小されています。このような逼迫した財政状況の中、一円たりとも無駄遣いは許されません。

消費増税で、市民の暮らしが厳しくなるにもかかわらず、地方自治体が防波堤の役割を果たせていません。市議会も市政をチェックできているとは言いがたい状況です。

議会は市長の追認機関ではありません。そうならないようにしっかりとした議員を選ぶ必要があります。

災害に強いまちはできたのか

津波避難タワー、築山建設に３億円

台風一五号の被害は市内全域に及びました。多くの市民が断水、停電や家屋の損壊で苦しい思いをしました。本市の災害対策予算は足りていたのでしょうか。

市のここ数年における災害対策の中心は、津波避難施設の建設工事です。近隣自治体が東日本大震災直後に国の補助金で事業を行っているのに対して、今ごろやっているのかという感じです。

市は津波避難計画と津波避難施設整備計画を自ら策定したにもかかわらず、想定した津波の高さを変更し、当初の想定では浸水しない場所に建設しました。たまたま空いていた市有地を使ったもので、建設地にも疑問が残ります。しかも過大な設備の避難タワー建設で費用は通常のものより倍近くの１億円かかりました。

さらに昨年は、ピラミッドのように土盛りをした築山を建設しました。これには２億円もの経費がかかりました。

２億円あれば同じ効果が得られるタワーを４施設はつくることができます。それが３億円かけてまだ２施設だけで、残りの計画の見通しが立っていません。このような大きな経費の土建工事偏重により、本来総合的に考えなければならない災害対策が大きく遅れていることは否めません。

今回の台風災害でも、市職員は精一杯力を尽くしていましたが、少ない人員や予算のなかではどうにもならないことが多いのです。

災害対策の拠点はどうなったの？

市は、バイパス沿いの市有地の隣の土地をわざわざ買い取っています。災害ボランティアセンターの機能を持たせた福祉と防災の拠点とするとしていたものです。防災拠点にするためにバイパスに面した土地が必要だとして、わざわざ高額な土地を買い取りました。本来ならば今回の台風災害でも災害対策の拠点として大活躍していたはずです。

ピラミッドのような築山、防災公園としても整備したことにより、管理費も多くかかる。築山が過剰なだけでなく、公園の必要性も疑わしい。一方で市は海浜地区の自然公園を廃止する計画を進めている。

それにもかかわらず何年も放置して、管理費は無駄に出費し、今まで入ってきた固定資産税は入ってきません。地価も下がり、大変な無駄遣いだったと言えます。

黒須としたか・プロフィール
1967（S42）年１月16日生まれ。
大網小・大網中卒業、長生高卒業
千葉大学法経学部卒業
会社員・印刷店経営を経て、
2003年町議会議員初当選
2014年市長選挙立候補
2015年市議会議員４期目当選
家族：父母 妻 息子（16歳・13歳）猫
趣味：登山・読書・料理

問われる巨大土建、効果と優先度は？

全て税金！総額40億 圏央道インターC

圏央道スマートインターは、過剰なフルスペックインターにより、建設費は四〇億円を超えています。側道の高機能化工事の追加なども行い、事業費はふくれあがり、大網白里市の負担分だけで一億九千万円にもなりました。これだけの事業を行いながら、企業誘致などができず、観光にも活かせられていません。投じた巨額な費用に対し得られる効果は大変小さいものと言わざるを得ません。市民の利便性だけなら木更津方面の乗り降りだけで十分だったのではないでしょうか。

遅れる生活道路の補修

大網駅東土地区画整理事業も度重なる工期の遅れで事業費がふくれあがりました。賑わいと利便性を高める商業業務機能を形成するとの計画ですが、まだほど遠い状況です。市が無理してやる開発だったのでしょうか。千葉銀行からイオンまでの都市計画道は大変便利になりましたが、この道路整備だけでもよかったのでは。今後、市民に対して大きな負担としてこのあと何年も重くのしかかってくることでしょう。

一方、生活道路の補修や整備にかける予算が年々減らされています。交通安全標識などの予算も同様です。通学路の管理も行き届いているとは言えません。

本当に子育て支援をする気があるのか？

エアコン１教室だけで500万円

学校へのエアコン整備について、黒須は5年前の市長選の前から争点にし、早期設置に努力してきました。市はいろんな屁理屈をこねて設置を拒んでいました。新しく建設した大網小学校などは最初からエアコンを設置すれば経費も小さくなるにもかかわらず、これも拒否してきました。市は国が補助金を決定するまで全くやる気がなかったのです。

エアコン設置の全国的な機運の高まりの中でようやく重い腰を上げた市ですが、ガスヒートポンプ方式のエアコン導入を言い出しました。最も費用がかかり、使い勝手が悪い方式をよりによって選んだのです。当初は、黒須の追求を全否定しておきながら、その後コソコソと電気方式に変えています。それでも費用を縮減する努力が足りず一教室あたり三〇〇万円もの高額となりました。市はエアコン購入ではなく、エアコン工事がやりたかったのです。季美の森小学校では一教室あたり五〇〇万円です。

えっ！給食費を値上げするの？

市は、こんな無駄遣いをしながら、給食費の値上げを表明しました。黒須は学級費や副教材費の予算化を一貫して訴えてきました。また、子どもの貧困の防波堤として重要な役割の給食費値上げに反対します。

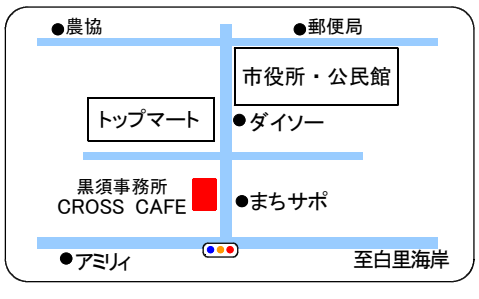
市は子育て支援を充実させて、子育て世代の移住定住促進につなげると言っていますが、近隣市と変わらぬ支援策ではとても見込めません。

むしろ本市は、近隣市の中で子育て支援が遅れているのです。黒須が一六年間訴えてきた児童館もようやくできます。本市の子育て支援は、近隣市で最も遅れているのです。

読み聞かせ用の大型絵本もようやく貸し出しをするようになりましたが、予算が足りないことを理由に個人への貸し出しを制限しています。宝の持ち腐れでは本末転倒です。

読み聞かせのボランティア

クロスカフェがオープン！



交流スペースクロスカフェ
午前10時半～午後6時
トップマートの近く
電話：73－4126

「もの言う議員」が必要です。

「もの言う知事」という言葉は、時々聞くことがあります。最近では加計学園問題ではっきりと国に反論する愛媛県の中村知事がそう呼ばれたりしました。一方「もの言う議員」という言葉はあまり聞きません。国会などで「もの言う議員」は当たり前だからだと思います。ところが地方議会では「もの言う議員」があまりいません。大網白里市議会でも同様です。議案の審議も予算の審査も意見があまり出ず、反対討論も賛成討論もほとんど行われません。

質問回数の制限をして、できるだけ議論をしないようにしているようです。一般質問についても、大きな会派が自分たちが有利になるよう質問時間を長くするのではなく、わざわざ個人質問時間より会派質問時間を短くする制度にしています。議論をせずに市長に賛成だけするのです。

市長の追認機関なら議会はいりません。議会が終わると控え室で市長批判をする者もいます。議会でしっかりと発言してもらいたいものです。

そのためにも不正の温床となっている選挙ポスター費用や政務活動費を黒須は市から受け取っていません。大網白里市議会で唯一の議員です。

政務活動費や選挙助成を受けない唯一の議員です。

あれこれ

▼白里地区のコミュニティバス「はまバス」は、1便あたり0・5人の乗車数しかなく1人を運ぶのに1万3千円の税金が使われる計算になります。一刻も早く見直しすべき事業です。▼大網駅前駐輪場は高いし、一時駐車もできません。年間料金の値下げ、短時間駐車の無料化、高校生の無料化などが必要です。▼東日本大震災で山武地域の公共工事の談合をした業者の損害賠償金を千葉県知事は5億8千万円減額（6割免除）しました。千葉県市民オンブズマンは、森田知事に対して裁判で闘っています。この6億円近い賠償金免除を決める会議を開いていないことが明らかになりました。森田知事は会議が嫌いだから、台風の災害対策会議もすぐに開かなかったのかもしれません。